

森と自然の 育ちと学び フォーラム 2024

森や自然を活用した保育・幼児教育の営みが、さらに広がりを見せています。それは、自然保育が、子どもたちの多様性と興味関心を尊重し主体的に学べる環境として、子どもの「非認知的スキル」を養うものと期待されているためだと考えられます。

2018年に設立された「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」は、このような営みを推進するため、自治体間の交流と学びあいの機会をつくり、情報発信や各種調査、人材育成、国への提言などにつなげることを目標としています。全国の加盟自治体、関係者等が交流する場として、2021年度からオンラインのフォーラムを実施してきましたが、今年度は初めて対面で開催することとしました。

有識者や現場の実践者を交えたパネルディスカッション、記念講演、事例発表のほか、少人数での分科会、現地視察などにより、先端の知見に触れていただきつつ、対面開催でしか得られない経験を共有することで、今後の各自治体及びネットワークの活動の取組を発展させることを目的として企画します。

日時

2025年
1/30(木)・31(金)

会場

1/30 14:00 - 17:30 (受付 13:30 -)
わらべ館(鳥取市西町3-202)
1/31 10:00 - 12:30 (受付 9:30 -)
智頭町立旧山形小学校(智頭町郷原238)
山形第一地区公民館(智頭町)

主催

森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク
(事務局 鳥取県子ども家庭部子育て王国課
Tel: 0857-26-7570 Mail: kosodate@pref.tottori.lg.jp)

申込方法

ネットワーク加盟自治体
別紙の出欠票をご提出ください。
その他、自然保育に関心のある方
どなたでもご参加いただけます。

リンク(またはQRコード)
からお申し込みください。
<https://apply-e-tumojp/pref-tottori-u/offer/offerListDetail?tempSeq=14121>

※申込期限
2025年1月20日(月)
1日目については、期限
後も定員に達するまで申込みを受け付けます。



アクセス

1日目 鳥取駅から徒歩20分、バス5分(停留所「わらべ館」、駐車場あり(片原駐車場))
2日目 恋山形駅から徒歩15分、智頭駅から乗合タクシー10分、駐車場あり(公民館裏手)

1 日 目

14:15	15:00	16:15	17:30
パネルディスカッション	記念講演 (田中輝美先生)	事例発表 岐阜県 ↓ 広島県 ↓ 奈良県	

2 日 目

10:00	11:00	11:30	12:30
園見学① (まるたんぼう)	移動自由	園見学① (まるたんぼう)	選択
園見学② (すぎぼっくり)		園見学② (すぎぼっくり)	
分科会① (山口美和先生)		分科会② (塩野谷斉先生)	
分科会③ (木俣知大先生) 前半:座談会		分科会③ (木俣知大先生) 後半:意見交換	
分科会④ (田口眞嗣先生) 前半:座学		分科会④ (田口眞嗣先生) 後半:実地研修	

パネルディスカッション

「自然保育認証制度の10年 ~これまでの歩みと今後の展望~」

自然保育認証制度は、近年各県に広がっていますが、その先駆けとなった鳥取県と長野県では、導入10年目を迎えました。この機会に、10年間の歩みを振り返り、自然保育・自治体ネットワークの未来を展望します。

<登壇者>

西村早栄子氏 NPO法人智頭の森こそだち舎理事長。2003年、夫の出身地である鳥取県に移住。県内の智頭町で「森のようちえん」をつくる活動に取り組んだ。町や県と連携し、2009年に「まるたんぼう」を創設。

内田幸一氏 長野県野外保育連盟理事長。1983年、飯綱高原に日本初の「森のようちえん」を設立。森と自然を活かした保育の普及に努めてきた。現在は「野あそび保育 みつけ」と「野あそび保育 ささはら」を運営。

幅田舞氏 「森のようちえん」に関心を持ち、「まるたんぼう」で研修を経験。鳥取の自然に魅了され、地域おこし協力隊として南部町に移り、2児の子育て中。

佐藤健氏 長野県飯田市長。豊かな自然環境や地域資源を活用した「飯田版やまほいく」を推進している。

平井伸治 鳥取県知事。2018年、長野県知事・広島県知事とともに発起人となり、森と自然の育ちと学び自治体ネットワークを設立。今年度、会長。

記念講演

「『関係人口』という新しい提案 ~地域づくりと人材育成~」

※田中輝美氏 鳥根県立大学地域政策学部准教授。鳥根県浜田



市出身。山陰中央新報社に入社し、琉球新報社との合同企画「環りの海—竹島と尖閣」で2013年新聞協会賞を受賞。同社退職後、地域に暮らしながら地域を記録・発信するローカルジャーナリストとして活動している。2017年から2020年まで、鳥取大学地域学部に出演。

過疎の発祥地から「過疎は終わった！」と投げかけ、持続可能な地域づくりを目指す「みんなで作る中国山地」の企画にも参加している。

著書『未来を変えた島の学校』(共著)、『関係人口をつくる』、『ローカルジャーナリストガイド』、『関係人口の社会学』

事例発表

「林政部から保育幼児教育の現場へのアプローチ」

岐阜県森林活用推進課の長沼慶拓氏より、保育部署との連携や木育推進などを題材に、林務部署としての取り組みについてお話しいたします。

「人材育成、民間との連携について ~自然体験活動アドバイザー制度~」

ひろしま自然保育推進協議会会長の杉山浩之氏、同県安心保育推進課の梶谷有優香氏より、人材育成・民間との連携についてお話しいたします。

「奈良っ子はぐくみ自然保育認証制度の導入経緯について」

奈良県こども保育課の高見麻依奈氏、上越教育大学大学院教授の山口美和氏より、2年前の認証制度導入時の議論についてお話しいたします。

分科会・現地視察

園見学① (まるたんぼう)

園見学② (すぎぼっくり)

鳥取県東部の2園の実践を見学していただきます。森・里山での「おさんぼ」や、季節に応じた活動の様子など、実際の雰囲気を感じられます。

分科会①

「保育の質の向上に向けた自然保育の可能性(仮)」

自尊感情やレジリエンス力を育むなどといった自然保育の効果に関する先行研究等を紹介しながら、保育の質の向上の観点から、自然保育を自治体が推進する意義や可能性について意見交換します。

※山口美和氏 上越教育大学大学院学校教育研究科教授、日本自然保育学会会長。各県の自然保育認証制度等に委員として携わりつつ、認証制度等に関する研究チーム代表等として多様な研究に携わる。

分科会②

「鳥取の自然を活かした保育の意義と実践(仮)」

鳥取だからこそ可能な自然の中での子育てについて、保育学をはじめとする専門的な見地から議論します。

※塩野谷斉氏 鳥取大学地域学部教授。専門は保育学。2017年、卒園児保護者への聞き取りなどをもとに、森のようちえん効果研究を実施。

分科会③

「子育て世代の移住につなぐ自然保育の可能性」

自然保育で過疎地域に子育て世帯の移住を促進する事例が増えています。前半は、I・Uターンで農林業に就業したり、地場産業を事業承継した保護者の生の声を聴く座談会を、後半は、過疎地域での開設事例や、過疎地域の公立園の民営化・自然保育化事例を紹介して意見交換を行います。

※木俣知大氏 (一社)東京学芸大Explayground推進機構研究員、日本自然保育学会理事。森と自然の育ちと学び自治体ネットワークの設立に携わり、自治体による自然保育の支援施策の創出等を支援。

分科会④

「指導者育成の実践」

鳥取県自然保育安全対策研修会を公開。前半は座学として、危険予知能力、体験活動・保命活動、合理的配慮などを講義。後半の現場研修は、冬場の鳥取の環境にあわせ、県内の保育者と活動の実践を行います。

※田口眞嗣氏 1998年より野外教育プロデューサーとして25年間、約20万人に体験プログラムを提供。(株)ON-WIPPS代表取締役、NPO法人自然体験活動推進協議会常任理事安全部会長、檜原森のおもちゃ美術館親善大使。